

神奈川県生活習慣病対策委員会がん・循環器病対策部会 がん関係の分科会 開催状況等について

1 各分科会の主な議題

- (1) 平成 28 年度市町村がん検診の実施状況について（資料 4 - 1、4 - 2）
- (2) がん検診受診促進・精度管理のための主な取組みについて（資料 5）

2 各分科会の開催概要

(1) 胃がん分科会

開催日：令和元年 12 月 24 日（火）

委員出席数：6 名

委員からの主な意見

- ・ 今年度の分科会の資料は、X線と内視鏡の合計値を載せていたが、検査方法が違い、対策も異なるため来年度以降はそれぞれ資料に載せてほしい。
⇒ 来年度以降検討する。
- ・ 国の指針では、H28 からエックス線の対象者について、「当分の間、40 歳以上の者を対象としても差し支えない。」とあるが、40 歳以上の者を対象とすることは指針外なのか。
⇒ 国の指針では、「当面の間、40 歳以上の者を対象としても差し支えない。」としているが、国が算定する受診率は、対象者は 50 歳以上であり、県としても 50 歳以上が対象者であると捉えている。
- ・ 検診機関別に集計しなければならないというのは、県が全ての検診機関について把握しないといけないのか。
⇒ 個別検診も含め、全ての検診機関について集計しないといけない。市町村が検診機関を把握していれば、それを県に報告することでも構わない。
- ・ 早期がん割合について、がん検診とがん登録の情報を照合すれば、わかるのではないか。
⇒ 現在、横浜市でがん検診とがん登録の照合を行っているため、実施状況を注視しながら、県も実施可能か検討する。

(2) 子宮がん分科会

開催日：令和元年 12 月 19 日（木）

委員出席数：6 名

委員からの主な意見

- ・ 精検受診率は、他の都道府県からも大変注目されている。以前、ある発表の場で、神奈川県の平成 28 年の精検受診率が大きく下がっていることを追及されたことがある。その大きな要因は、横浜市の精検受診率が極端に下がっていることだった。横浜市は母数が大きいため、神奈川県の数字に大きく影響してくる。いろいろ諸事情はあるだろうが、評価に耐えられるような数字を公表できるようにし

ていただきたい。

- ・ 年齢階級別のがん発見率のグラフをみると、30代前半と40代前半が低いですが、年齢別り患率をみると、35歳から39歳のり患率が一番高い。このり患率に対して、この発見率にとどまっているということは、まだまだ拾い得ていないということであるので、この年代にはもっと介入していく必要があることを情報共有していきたい。

(3) 乳がん分科会

開催日：令和元年12月19日（木）

委員出席数：6名

委員からの主な意見

- ・ 国の第2指標は上限を69歳までで区切って受診率を算出している。これは国際的な比較を行うために上限を設定しているかと思うが、県でも上限を設けない全体の受診率と69歳までの上限を設けた受診率の2つを併記することはできないか。
⇒ 第2指標としては年齢を区切らないで算出した受診率を使用するが、そこでの比較を行う材料ということであれば、どの程度でできるかを確認したい。
- ・ 検診機関別実績を検診機関に対して県からフィードバックした方が良いのではないか。検診機関に伝える際に、厚労省の許容値等をベースにして伝えるのではなく、全国平均や神奈川県全体の平均、あるいは個別検診での平均を伝えて、もう少し改善してもらえないかと働きかけるのが良いのではないか。
⇒ 今までこの資料を分科会で議論するために作成し、検診機関には個別にフィードバックは行ってこなかった。行政の立場として、この結果だから良い悪いとは言えないので、まずはデータを検診機関に示して気付きを与えることが必要なのではないか。この資料を見れば、他の医療機関や国の指標と比較しても、例えば要精検率が高すぎるのは明らかとなっている。どこまで検診機関に示してフィードバックするのは持ち帰って検討したい。

(4) 肺がん分科会

開催日：令和元年12月16日（月）

委員出席数：5名

委員からの主な意見

- ・ 藤沢市では高齢化とともに検診対象者数は増加しているが、受診者は減少している。検診対象者のうち、職域で受診している人もいるため、市全体での受診者の状況把握が難しい。
⇒ 市町村の受診率把握に加え、職域での受診率を把握することが重要と考える。職域の受診率把握は現状では難しいが、国が方策を検討している。
- ・ 集団検診機関のデータで、要精検率のばらつきが見られる。
⇒ まずは、検診機関に他検診機関との違いを知ってもらうことが重要と考える。今後検診機関別のデータをフィードバックすることを検討する。

- ・ 「CT 検診」と「検診結果集計方法」について、検討が必要ではないか。
⇒ 次回の分科会で検討する。

(5) 大腸がん分科会

開催日：令和元年 12 月 20 日（金）

委員出席数：3 名

委員からの主な意見

- ・ 厚木市、藤沢市の精検受診率が低い
⇒ 一次検診実施機関が検診結果の説明時に精密検査の受診勧奨を行うのみで、市が直接に受診勧奨を行っていなかったことが要因の一つとして考えられる。
- ・ 神奈川県における市町村チェックリストの遵守率が全国平均に比べ低い。
⇒ 検診の精度管理にどれだけコスト、マンパワーを割けるかによって遵守率に差が生じるものとする。一つでも多くの項目をクリアできるよう、市町村に働きかけていく。
- ・ 今年度のがん検診医師・技師等研修会の参加者数が少ない。
⇒ がん検診を担当する医師・技師が聞いてみたいと思うようなテーマでも検討していく。来年度は大腸がんを取り上げることも検討中である。